

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和7年第39週 (ARIのみ第38週) の発生動向

□ トピックス

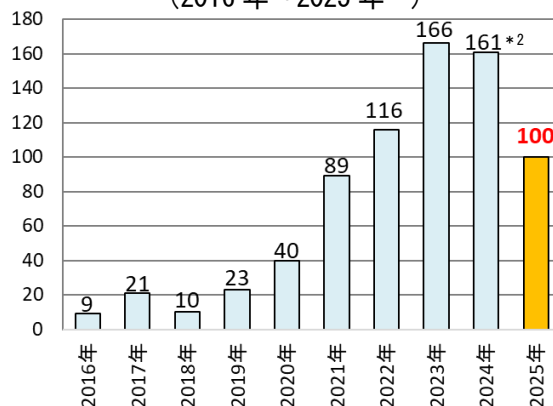
・梅毒(全数報告の感染症)

第39週までの診断週による累計報告数が100例となった。2022年以降4年連続、100例以上で、報告数が多い状況が続いている。0歳から80歳代までの幅広い年齢層から報告があがっている。

性別は男性が44例、女性が56例で、年齢群別では、10歳代から20歳代が全体の約7割を占めている。また、保健所別では宮崎市保健所管内からの報告が最も多く、62例となっている。

2025年(第1週～第39週) 保健所別・年齢別報告数

保健所名	報告数	0～4歳	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
宮崎市	62	1	19	46	15	8	8	0	2	1
都城	18									
延岡	8									
日南	4									
小林	4									
高鍋	1									
高千穂	0									
日向	3									
中央	0									

診断週による年別累計報告数の推移
(2016年～2025年*¹)

※1 2025年は第1週～第39週まで

※2 2024年は暫定値

□ 全数報告の感染症 (39週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核2例。

3類感染症：報告なし。4類感染症：日本紅斑熱1例。

5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、梅毒4例、百日咳7例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	発熱
			80歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
4類	日本紅斑熱	宮崎市	80歳代	男	—	発熱、発疹、肝機能異常
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	宮崎市	70歳代	男	—	ショック、腎不全、DIC
	梅毒	宮崎市	20歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	丘疹性梅毒疹
			30歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
		都城	20歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	硬性下疳、梅毒性バラ疹
			30歳代	男	晩期顕症梅毒	眼症状
	百日咳	宮崎市	5～9歳	男	—	持続する咳
			20歳代	男	—	持続する咳
			70歳代	女	—	持続する咳
		都城	10歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			40歳代	女	—	持続する咳
		日南	10歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
		高鍋	5～9歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・第 39 週の定点医療機関からの報告総数(急性呼吸器感染症除く)は 520 人(定点当たり 27.7)で、前週比 75%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑であった。また、第 38 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 1,353 人(定点当たり 48.3)で、前週比 90%と減少した。

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 258 人(9.2)で、前週比 67%と減少した。年齢群別は 20 歳未満が全体の約 4 割、60 歳以上が全体の約 3 割を占めた。

【伝染性紅斑】

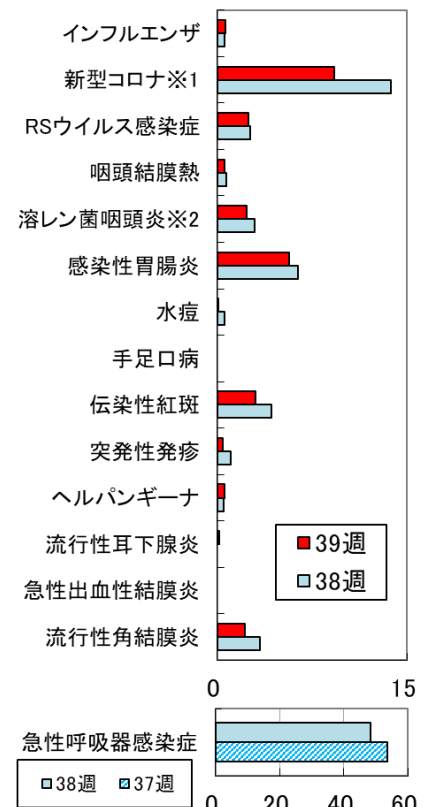
報告数は 45 人(3.0)で、前週比 70%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.4)の約 6.8 倍であった。年齢群別は 3 歳から 6 歳が全体の約 7 割を占めた。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は 35 人(2.3)で、前週比 80%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (1.4)の約 1.7 倍であった。年齢群別は 6 歳から 8 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

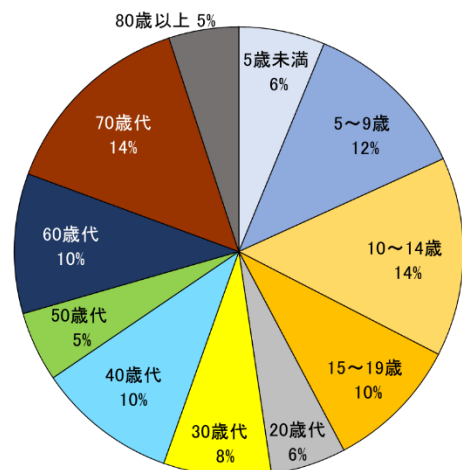
《前週との比較》



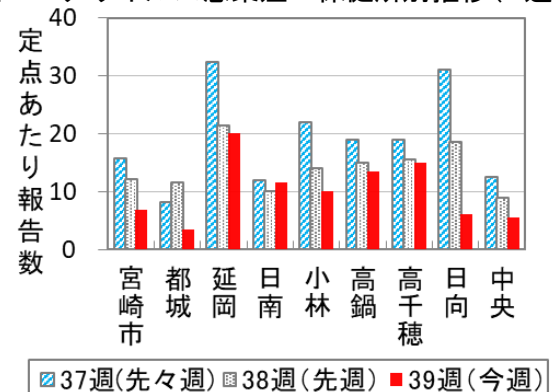
定点あたり報告数

※1 新型コロナウイルス感染症
※2 A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

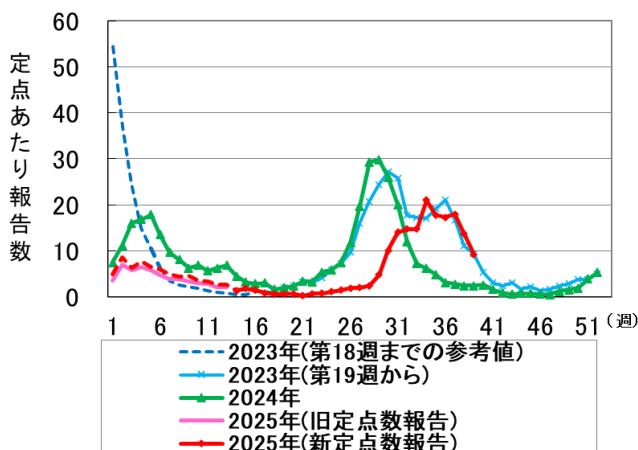
新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ(第 39 週)



新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3 週分)



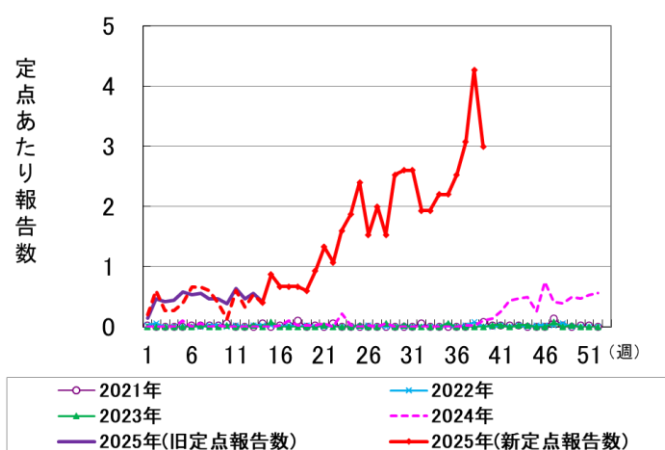
新型コロナウイルス感染症 発生状況



※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

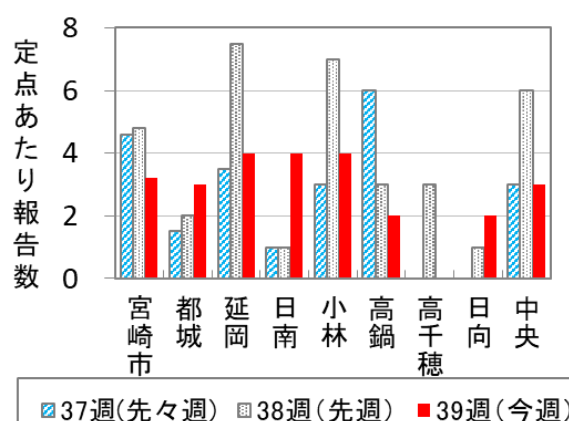
※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週
～第 18 週分のデータは、定点医療機関から
の報告数をもとに算出した参考値

伝染性紅斑 発生状況

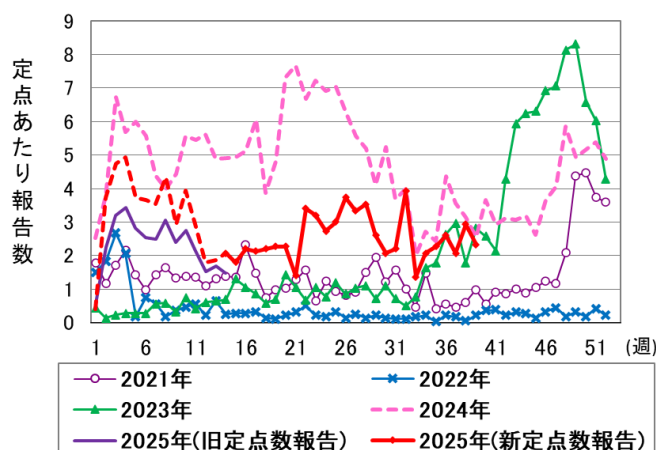


※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

伝染性紅斑 保健所別推移(3 週分)

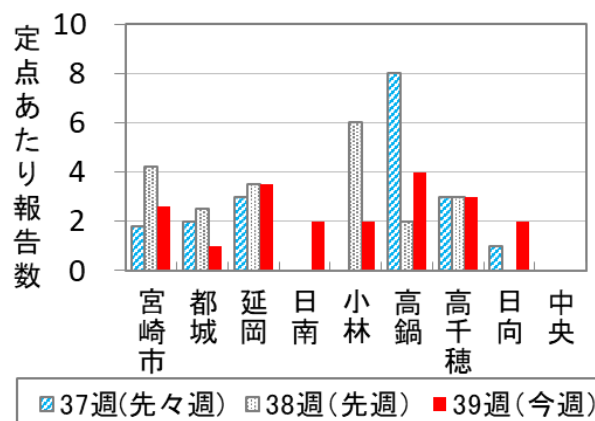


A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



※2025 年(新定点数報告)の第 14 週までは、
新定点医療機関数をもとに算出した参考値

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎
保健所別推移(3 週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は 3 例(定点当たり 0.4)で、宮崎市(3 例)保健所から報告があった。年齢は 5～9 歳が 2 例、0～4 歳が 1 例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	伝染性紅斑(3.2)
都城	伝染性紅斑(3.0)
延岡	伝染性紅斑(4.0)
日南	伝染性紅斑(4.0)
小林	感染性胃腸炎(21.0)、伝染性紅斑(4.0) ヘルパンギーナ(6.0)
高鍋	伝染性紅斑(2.0)
高千穂	なし
日向	感染性胃腸炎(20.0)、伝染性紅斑(2.0)
中央	伝染性紅斑(3.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・感染性胃腸炎(20)
- ・伝染性紅斑(2)
- ・ヘルパンギーナ(6)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル
基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部）

★急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection：ARI）

（2025 年第 38 週：9 月 15 日～9 月 21 日搬入分）

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			4
RSウイルス	A型		0
	B型		1
パラインフルエンザウイルス	1型		0
	2型		0
	3型		0
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			0
ライノウイルス			1
エンテロウイルス			0
アデノウイルス			0
検出せず※2			4
受付検体数			10

○ 急性呼吸器感染症（ARI）※1サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症（ARI）：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか 1 つ以上の症状を呈し、発症から 10 日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

（細菌・ウイルスについては 2025 年 9 月 29 日までに検出分）

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Oranienburg (O7:m,t:-)	5～9歳	女	2025.08.29	発熱、腹痛、下痢	便	2025.09.05
EPEC (OUT:HUT)	20歳代	女	2025.09.01	発熱、腹痛、下痢	便	2025.09.11
EPEC (OUT:H6)	10歳代	男	2025.09.01	発熱、嘔気・嘔吐、腹痛、下痢	便	2025.09.11
<i>Salmonella</i> Haifa (O4:z10:1,2)	10歳代	男	2025.09.01	発熱、嘔気・嘔吐、腹痛、下痢	便	2025.09.08
EPEC (O143:H18)	10歳代	女	2025.09.04	発熱、下痢	便	2025.09.16
EHEC (O103:H2 VT1)	30歳代	男	2025.09.09	下痢	便	2025.09.18
EHEC (O103:H2 VT1)	30歳代	男	2025.09.16	なし	便	2025.09.25

○30 代男性から腸管出血性大腸菌（EHEC O103:H2 VT1）が検出された。EHEC 感染症の症状は、一般的に腹痛、水様性下痢及び血便である。抵抗力の低い小児や高齢者は、意識障害を伴う溶血性尿毒症候群（HUS）や脳症など重症化することがある。一方で、抵抗力が高い人は無症状及び軽い症状で終わることもある。EHEC 感染症には、腸管の運動を抑える下痢止め薬を服用しない方が良いこともあるため、自分の判断で薬を服用せずに医師の診断を受けることが大切である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Adeno virus B3※	0～4歳	男	2025.08.12	咽頭炎、39.0℃、結膜炎	鼻汁	2025.09.29
Rhino virus A	0～4歳	女	2025.07.17	急性胃腸炎、下痢	便	2025.09.17
Rhino virus A	0～4歳	女	2025.08.09	感染性胃腸炎、下痢	便	2025.09.29

※ ARI 病原体定点から検出されたウイルスのうち、分離されたウイルスも再掲

全国 2025 年第 38 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	183 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	138 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	3 例	A型肝炎	1 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例
	つつが虫病	1 例	デング熱	3 例	日本紅斑熱	22 例
	レジオネラ症	45 例	レプトスピラ症	1 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	6 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	11 例
	急性脳炎	4 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12 例
	後天性免疫不全症候群	6 例	ジアルジア症	2 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	3 例	侵襲性肺炎球菌感染症	12 例	水痘(入院例)	9 例
	梅毒	167 例	播種性クリプトコックス症	4 例	破傷風	3 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	1168 例		

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数（急性呼吸器感染症除く）は前週比 85%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び伝染性紅斑であった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 89%と減少した。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 26,631 人(6.9)で前週比 82%と減少した。宮崎県(13.7)、愛媛県(13.4)、大分県(12.7)からの報告が多く、年齢群別では 20 歳未満が全体の約 4 割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は 2,889 人(1.2)で前週比 73%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値* (0.3)の約 4.2 倍であった。宮崎県(4.3)、大分県(3.6)、山形県(3.5)、佐賀県(3.5)からの報告が多く、年齢群別では 3 歳から 6 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

疾病名		第38週	第39週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	15	17	11		1		2	2			1
	定点当り	0.54	0.61	1.22	0.00	0.33	0.00	1.00	1.00	0.00	0.00	0.50
新型コロナウイルス感染症	報告数	384	258	61	14	60	23	20	27	30	12	11
	定点当り	13.71	9.21	6.78	3.50	20.00	11.50	10.00	13.50	15.00	6.00	5.50
RSウイルス感染症	報告数	39	37	13		9	6	1	1		1	6
	定点当り	2.60	2.47	2.60	0.00	4.50	6.00	1.00	1.00	0.00	1.00	6.00
咽頭結膜熱	報告数	11	9	8					1			
	定点当り	0.73	0.60	1.60	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	44	35	13	2	7	2	2	4	3	2	
	定点当り	2.93	2.33	2.60	1.00	3.50	2.00	2.00	4.00	3.00	2.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	96	85	14	13	4	4	21	2	2	20	5
	定点当り	6.40	5.67	2.80	6.50	2.00	4.00	21.00	2.00	2.00	20.00	5.00
水痘	報告数	9	1	1								
	定点当り	0.60	0.07	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	64	45	16	6	8	4	4	2		2	3
	定点当り	4.27	3.00	3.20	3.00	4.00	4.00	4.00	2.00	0.00	2.00	3.00
突発性発しん	報告数	16	6			2		3			1	
	定点当り	1.07	0.40	0.00	0.00	1.00	0.00	3.00	0.00	0.00	1.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	8	9	1				6			2	
	定点当り	0.53	0.60	0.20	0.00	0.00	0.00	6.00	0.00	0.00	2.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数		2	1								1
	定点当り	0.00	0.13	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	20	13	9	3	1						
	定点当り	3.33	2.17	3.00	1.50	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	3	3	3								
	定点当り	0.43	0.43	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2025年 第38週 (09月15日～09月21日)

		第37週	第38週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	1496	1353	347	130	204	97	122	89	93	169	102
	定点当り	53.43	48.32	38.56	32.50	68.00	48.50	61.00	44.50	46.50	84.50	51.00

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数 (2025年 第1週 ～39週 保健所受理分)

2類感染症	結核	99例(2)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	26例		
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例
	つつが虫病	8例	デング熱	2例
	レジオネラ症	6例		
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	2例
	急性脳炎	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	14例(1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症	19例
	梅毒	102例(4)	播種性クリプトコックス症	1例
	百日咳	1,360例(7)		

()内は今週届出分、再掲